

AIが利用者の転倒を検知してスタッフに報告

ケアビジョン



AIが利用者の転倒を検知してスタッフに報告

ケアビジョン

表「ケアビジョン」の特長



表「ケアビジョン」の特長
プライバシー配慮型見守り
実時間で使用せず
即時対応
事後検証

タッフの献身的な姿勢に頼つてばかりではいけない、と強く思いました（大根さん）
「ケアビジョン」は、正確な転倒の検知・報告に加えて、介護スタッフの負担軽減」という役割も強く意識して開発が進められました。

「ケアビジョン」の特長

優れた検知の精度
データ記録システム
ディープ・ラーニング
(英語字幕)を活用し、人間の関節の位置情報や転倒に関する情報をAIが高精度で検知してスタッフに知らせてくれます。自發的に寝転んだりしたような動きは識別され、誤報により何度も居室を訪ねるようなことも減少します。

AIが笑顔のサポートを
原因解析・予防に役立つ
データ記録システム
骨格動画で転倒発生のメカニズムや詳細な状況の確認ができます。詳細な状況検証データにより転倒の原因解析は、利用者の関節の座標位置データのみです(運動人の動きがわかるように点と線を組みた骨格動画を生成)。利用者の実画像は誰も見られず、センサー等の着用を求めるかもしれません。

「ケアビジョン」は、2年間の開発期間を経て2021年10月にサービスを開始。その特長は次のとおりです。

左: 現実の様子
中: AIが認識する関節位置情報
右: 動作がわかるように点と線で動画生成

問い合わせ先
株式会社AXIVE (アクシヴ)
<https://carevision-ai.com/>

介護事故の半数以上が転倒・転落に関連

加齢によって誰でも転倒のリスクは高まります。東京消防庁によれば、事故で救急搬送された高齢者の8割が「ころぶ」事故に関連しています(東京消防庁HP、「救急搬送データから見る高齢者の事故」)。介護施設の事故報告の内容も半数以上が転倒や転落といわれています。

介護従事者にとって防止対策はもちろん、転倒した利用者にいかに迅速に対応するかも重要な課題です。とはいって、夜勤などは居室での転倒を同時に察知しつけることが難しいケースも多く、職員にとつて悩みの一つとなっています。そのような問題を最新のデジタル技術を用いて解決しようと開発されたのが、介護施設夜間巡回代行AI「ケアビジョン」です。

利用者の関節の位置情報を信号

最新のデジタル技術を活用し、AIサービスが開始されました。介護スタッフの負担軽減と高い介護を両立させれる「介護DX」を実現するシステムとして、話題となっています。

転倒の8時

「ケアビジョン」を開拓している現場でよく使う基本の医子・介護用語120

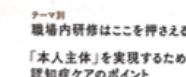
介護専門職の総合情報誌

おはよう21

3
March 2022



マネジメント特集

現場の経験をすり替える
介護保険・社会保障制度情報テーマ別
職場内研修はここを押さえる
「本人主体」を実現するための認知症ケアのポイント

「あの言葉の意味、説明できますか?
絶対に押さえたい
現場でよく使う
基本の医学・介護用語
120

追悼企画
長谷川和夫先生に伝えたい言葉